

要 望 書

2019年5月30日、沖縄闘争を闘い無実を訴え続けていた星野文昭さんは、44年もの投獄を強いられた上、東日本成人矯正医療センターにおいて死亡しました。同センターで肝臓がん切除手術を受けてわずか2日後のことでした。

切除された腫瘍は14×11×9cm、重さは1700グラムもありました。医療センターにこれほど巨大な腫瘍を切除する設備と能力があったのか、また徳島刑務所がこれほど巨大になるまでなぜ放置したのか、刑務所は星野さんの命を救う医療を行ったのか、大きな疑問です。

私たちは、星野さんは国家・刑務所の劣悪な医療によって殺されたと考えています。

妻の星野暁子さん、兄の星野治男さん、弟の星野修三さんは、星野文昭さんがなぜ獄死することになったのか真実を解明し、徳島刑務所と東日本成人矯正医療センターの責任を追及するため2020年2月21日に国家賠償請求訴訟を申し立てました。

裁判所は、人命と人権を尊重する立場から、星野文昭さんの無念と真摯に向き合い、星野さんへの医療及び刑務所医療の実体を徹底的に解明し、国家・刑務所の責任を問うてほしいと思います。そして、この裁判が現在の非人間的な刑務所医療を変革していくことにつながるような、公平で厳正な審理と判断を要望します。

年 月 日

お名前	ご住所
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒